

◆団体基本情報

No.	15	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人瑞鳳殿		
所在地	〒980-0814 仙台市青葉区霊屋下23-2						
電話番号	022-262-6250		FAX番号	022-262-6251		所管 部局	文化観光局 観光課
団体ホームページ	https://www.zuihoden.com/						
代表者職氏名	理事長 藤本 章			設立年月日	昭和55年1月30日		
基本財産等	888,343 千円		市の出捐額(割合)	582,877 千円 (65.6 %)			
設立目的	仙台藩以来の文化的遺産である瑞鳳殿・感仙殿・善応殿の三霊屋及び経ヶ峯内伊達家墓所の保存整備並びに伊達家霊廟等に関する学術研究を行い、併せて当該施設の鑑賞の機会を提供し、文化の向上に寄与する。						
事業概要	(1) 瑞鳳殿・感仙殿・善応殿の三霊屋の管理運営及び経ヶ峯内伊達家墓所の保存・整備 (2) 瑞鳳殿資料館の管理・運営 (3) 伊達家宝物等に関する展覧会、講習会、講演会等の主催・公演 (4) 瑞鳳殿・感仙殿・善応殿の三霊屋及び経ヶ峯内霊廟並びに伊達家墓所に関する調査研究						
評価対象決算期	令和5年4月1日～令和6年3月31日						

◆人員等の状況

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
①常勤役員数	1 人	1 人	1 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	1 人	1 人	1 人
②常勤役員平均年齢	62.0 歳	63.0 歳	64.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	4,617 千円	4,636 千円	4,664 千円
④職員数	8 人	8 人	8 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	1 人	1 人	1 人
⑤職員平均年齢	50.1 歳	51.1 歳	52.1 歳
⑥職員平均年間給与	4,325 千円	4,403 千円	4,755 千円

◆主要財務データ

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
①当期経常増減額	△ 22,858 千円	36,795 千円	54,337 千円
②当期経常外増減額	△ 8 千円	53,945 千円	0 千円
③当期一般正味財産増減額	△ 22,938 千円	89,916 千円	53,646 千円
④一般正味財産期末残高	342,757 千円	432,673 千円	486,319 千円
⑤指定正味財産期末残高	782,556 千円	725,229 千円	721,847 千円
⑥正味財産期末残高	1,125,313 千円	1,157,902 千円	1,208,166 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆市の財政的関与

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
①市からの補助金	0 千円	0 千円	0 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	0 千円	0 千円	0 千円
③市に対する収入依存度	0.00 %	0.00 %	0.00 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和5年度事業費
瑞鳳殿等の管理運営と鑑賞機会の提供	瑞鳳殿の管理運営と鑑賞機会の提供並びに伊達家霊廟等の調査研究	125,185 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	当財団の公益的使命は、伊達家霊廟の調査研究や瑞鳳殿施設の公開による文化の向上である。一方、本市の主要観光施設として、国内外から多くの観光客を集めており、本市の観光施策における重要な一翼を担っている。また、七夕まつり期間中における仙台市の各種事業との連携や、外国人観光客受け入れにおける連携など、本市の観光施策の推進に積極的に対応している。	伊達の歴史文化に係る調査公開を通じて文化の向上に取り組むと同時に、アフターコロナにおけるさらなる交流人口拡大やインバウンドの増加に向け、本市や関係者との連携を密にしながら、柔軟かつ適切な運営を行っていただきたい。
2. 業務・組織管理	職員は当財団の設置目的や運営方針をよく理解し、協調して組織運営に努めている。当財団が管理運営する施設は、ほぼ無休で公開していることから、従事する職員が交代勤務となるため、組織内の情報の共有化が課題であった。このため全員出勤日を増やし、案件の進捗状況などの共有すべき情報の徹底を図ることにより、組織内の連携も強化されている。	運営基本方針を策定し、組織の基本方針の可視化を図っている。また、業務の改善に向けた見直しを常に行っており、今後も、効率的かつ適切な事業運営を行いながら、環境の変化に柔軟に対応できる実効性のある組織の構築に取り組んでいただきたい。
3. 財務状況	当財団の財務状況は、集客数に左右される要素が大きく、新型コロナの影響を受けた、令和2,3年度は10万人台と低迷し、当財団の事業収益に大きな影響を与えた。その後、行動制限の緩和やインバウンド効果等もあり、令和4年度は21万9千人と倍増し、令和5年度は31万3千人と過去2番目の観覧者数となった。その結果、令和5年度の収支は黒字となり、霊廟整備積立資産として、5,000万円計上することが出来た。今後も安定的な収益が確保できるよう努める。	今後も、事業の効率化等により効率的かつ効果的な法人運営を目指すとともに、中長期的な視点に基づき、メンテナンス費用を考慮した安定的な法人運営を図っていただきたい。今後とも、より一層の誘客の促進により、引き続き安定的な収益確保を図っていただきたい。
4. 今後の方向性及び課題	当財団の収入源は観覧料収入であり、安定した経営基盤に向け、更なる集客力アップにはソフト面の充実や、瑞鳳殿一番の魅力であるハード面の維持管理や修繕するための中長期的な資金確保が必要である。安定的な資金確保に向けては、関係団体と連携しながら、アフターコロナにおける社会情勢の変化に応じて更なる国内観光需要の取り込みや、県民、市民への需要喚起を図るとともに、インバウンドの復活にも適切に対応できる人員体制を考慮した事業計画を策定する必要がある。	アフターコロナにおける都市間競争が激化する中、本市の文化観光をリードする青葉山エリアに位置し、伊達の歴史文化を国内外に発信するという瑞鳳殿の役割は、益々重要になっている。文化的価値を有する施設を適切に管理する取り組みを今後も進めるとともに、引き続き本市と連携しながら、交流人口の一層の拡大に向け、取り組みを進めていただきたい。